

## 日々、自分の十字架を背負う

ルカによる福音書9章18～27節

四條町教会牧師 藤 秀彦



東日本大震災から12年を迎えました。今、私が遣わされている四條町教会でも、幼稚園舎の各所にひび割れや天井の落下などの被害が発生し、しばらく休園を余儀なくされました。応急処置の後に保育は再開されましたが、園児たちの安全な

保育のために、私たちの幼稚園は傷んだ園舎の大規模な改修を行う決断をしたのです。この改修のためにかかった費用を完済するには、あと10年かかります。

教会につながる兄弟や幼稚園の幼な子たちと共に歩む日々の上に、震災による想定外の重荷が加えられたことには厳しさを感じます。しかしこの教会、幼稚園の働きがこの世における神様の業に与ることだと信じ、何としてもこの重荷を引き受けなくてはならないと思っています。

ある新聞に、東北地方で被災された方の投書が掲載されていました。震災後なぜ自分が助かったのかと自問しながら今日まで生きてこられたという投稿者は、まるで重い十字架を背負うようだったと言います。自分は震災のために生きられなかった命の分も背負って生きている、そういう思いが綴（つづ）られていました。望んでいなかった重荷であるけれども、これを背負って明日を生きようという覚悟が感じられた言葉でした。

私たちは今、コロナ禍と呼ばれる状況のもとに置かれています。想像しなかった感染症の流行に抗えず、普通だと思っていた生活が覆され、「新しい生活様式」なる日常を送らざるを得なくなりました。しかしこのような日々もやがては終わり、皆で心置きなく顔を合わせて語りあえる日が来るだろう。そう信じて、重く苦しい今を受け入れたいと思うのです。

ルカ福音書によると、民衆の間でイエスは何者

かという噂（うわさ）が飛び交う中、イエスの弟子の一人ペトロは「神からのメシアです。」と答えたといます。この時ペトロが思い描いていたメシアは、人々の前で光り輝き、勝利と繁栄を手にして皆からほめたたえられる方でした。

ところがイエスの口から出たのは次のような言葉でした。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」

イエスが語られたのは、皆が期待していたような力と繁栄を体現するメシアではなく、苦しむメシアの姿だったのです。

イエスの弟子たちは、この後もイエスと共に福音を宣べ伝える日々が続くと思っていたはずですが。しかしイエスの受難予告は、弟子たちが期待していた歩みが、彼らの意に反して中断させられてしまうことを意味しました。弟子たちは予想していなかったイエスの言葉を聞いて驚き、ひどく不安になったに違いありません。イエスは驚く弟子たちを前にして、さらに言われます。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」

イエスが天に帰られた後に残された者たちは、どう生きるのか。イエスの言葉はその答えとなりました。自分の十字架を背負ってイエスに従うとは、どんなに険しい人生を強いられるのだろうかと思われます。しかし私たちにはイエスがおられます。悩み苦しむ者に寄り添い、最期にはご自分を十字架につけた者たちの為に祈られたイエスが、私たちに先立って歩いて下さったのです。私たちが抱える苦しさを最も理解して下さる方が、私たちに新しい人生の道を備えて下さいました。このイエスが示された自分の十字架を背負っていく歩みをわがものとし、苦しみのなかでも神様の祝福を見いだすことができる私たちでありたい。それが生きることが困難な今を生きる力になるのではないのでしょうか。



## 授手礼報告

教区書記 小池 正造

2022年の教区授手礼が、11月26日（土）に大宮教会を会場に、熊江秀一教区議長の司式によって行われました。4名の正教師が誕生しました。この度受授したの、大島庄吾師（新潟愛泉伝道所主任）、野澤幸宏師（栃尾教会、巻祝福教会主任）、稲益久仁子師（埼大通り教会主任）、佐藤彰子師（越生教会）です。

熊江議長は、マタイによる福音書より「すべての人の救いのために」と題し御言葉を語り、「主イエスは、今も宣教の主イエスとして働いておられる」と励ましの言葉を語りました。それぞれの遣わされた地において、主イエスと共に、御言葉を宣べ伝え続ける力を与えられました。

授手礼の最後に、この度授手を受けた佐藤彰子師が、力強く祝祷をいたしました。

その後受授者より、所信表明を受けました。それぞれが遣わされている教会と現場において、課題を見つけつつ、それに取り組む姿を伺いました。このたび受授された方々はいずれも教区内が初任地で、この三年間を懸命に取り組んでこられた姿を耳にしておりましたので、なおいっそう所信表明を身近に伺うことができました。

式の最後に関係者紹介が為されました。コロナ禍もおさまりつつありましたので、多くの関係者が、遠方からもおいでくださり感謝いたします。なお、授手礼の様子は、教区ホームページより閲覧することができます。どうぞご覧になって、一緒に教師が誕生した喜びを味わってください。「関東教区」で検索していたら、次のアドレスを入力してください。<http://uccjkanto.holy.jp/kanto/ansyu2022/ansyu2022.htm>



新潟愛泉伝道所主任担任教師

大島 庄吾



神学校を卒業し、新潟愛泉伝道所に遣わされ、あっという間の3年間でした。伝道所での毎週の説教、水曜日の祈祷会の準備、新しい人たちの入門クラス、信仰告白の学び、シニアクラスと正教師試験の準備と追われながらも私のような者

を励まして祈ってくれる信徒の方々や先輩の牧師たち、一人ではないのだと実感しつつも神様の業

に参加することへの喜びは、私自身を力づけてくださいました。神の愛は「見捨てず離れず。」私自身ただ、神の恵みで背を押され遣わされた者として練られていることを実感していました。

今回の授手を受けて、神の召命が内的、外的にもはっきり確信をいただきました。走馬灯のようにわずか3年間の牧会伝道の働きに、聖霊の働きを覚えることのうれしさに、授手式がこんなにも感動するものかと感謝いたしました。皆さんの深い祈りと神様の深い摂理に正教師として今後は遣わされますが、初めの愛に帰り、呼び出された召命が一つの礎の石として宣教の業に携わっていきたいと思います。

栃尾教会・巻祝福教会主任担任教師

野澤 幸宏



このたびは、使徒の時代より続く宣教の霊を受け継ぐ按手に与り、正教師として立たせていただきましたことを、父と子と聖霊なる神さまに感謝いたします。

思い返せば、日本聖書神学校を卒業し、栃尾教会と巻祝福教会に伝道師として着任いたしました2020年の春は、コロナ禍最初期、世界中が大混乱の最中でした。それゆえ、神学校の卒業式も栃尾・巻祝福の就任式も、出席人数に制限をかけざるを得ず、祈って支えてくださった多くの方々にお礼を伝えることも出来なかったためか、どこか心に区切りがついていない思いのままこの3年を過ごしてきました。しかし、この按手式には、出身教会の坂戸いずみ教会や家族、教区のさまざまな交わりのある方々の出席もかない、「2年半越しの卒業式」のような思いがいたしました。これにより、主からいただいた宣教の使命にしっかりと応えして歩いていく決意が改めて与えられております。これからは、正教師として受け継いだ宣教の霊の導きにお委ねし、栃尾と巻の地において、聖礼典とみ言葉を取り次ぐ、福音宣教の業に努めてまいりたいと願います。



埼大通り教会主任担任教師

稲益 久仁子



「わたしたちは、恵みの上にさらに恵みを受けた」ヨハネによる福音書1章16節。主の憐れみによって按手礼を授けていただきました。「全世界に行って福音を宣べ伝えなさい」(マルコによる福音書16章15節)という、主イエス・キリス

トの大宣教命に忠実に従う僕として、福音を宣べ伝え、聖礼典を執行し教会を導き、主から委ねられた人々に仕えるものと誓約をいたしました。

神さまは、その恵みの上にさらに大きな恵みを与えてくださいました。2022年12月25日(日)クリスマス礼拝において、初めての洗礼式を備えてくださったのです。受洗者は2人(コロナウイルスの影響で1人は2023年1月22日(日)主日に洗礼式)、COVID-19のパンデミックの中、神さまが教会に招いてくださった方々でした。神さまのみ業が現わされた洗礼式でした。洗礼式後は共に聖餐式に与りました。按手礼を受けるまでと聖礼典を協力してくださった遠藤富寿牧師先生と角田隆史牧師先生、そして埼大通り教会の皆さまの祈りに支えられ、一歩ずつ歩ませていただきましたことを感謝いたします。すべてが主の栄光となりますよう努めてまいります。



越生教会主任担任教師

佐藤 彰子



このたび、大宮教会で按手を受けました。当日私は緊張の極みにあり、1人でとても早く越生教会を出て、八高線で大宮に向かいました。本当に美しい景色の中、しばらく思いをめぐらしていると、逆走している

ことに気づきました。慌てて小川駅で乗り換え、それでも1時間前に着くことができました。

間違いと失敗が多い人間です。正教師試験教区推薦面接の直前に階段から落ち、入院手術になりましたが、常置委員会のご配慮で、後日面接を受けさせていただき、按手に至ることができました。

なぜ主はこんなわたしを召し、進ませるのだろうか。パウロが、コリントの信徒への手紙Ⅱで、「誇る必要があるなら、わたしの弱さにかかわる事柄を誇りましょう」と言っています。きっと、この愚かで間違いの多い私を用いようという主の不思議な御計画があるのでしょうか。自分の体をまだしっかり支えられない私の手に、耐えられない重みをかけないように心を砕いていただいた按手礼式でした。感謝して、喜んで僕は働かせていただきます。主が共におられます。





## 第72総会期第4回常置委員会報告

教区書記 小池 正造

第4回常置委員会を2月14日に、第5回常任常置委員会を11月26日に、第6回常任常置委員会を1月31日に大宮教会で行いました。

- ・財務部より、「埼玉りそな銀行普通口座」の処理について、常置委員会に提案され、損金扱いで処理をすることが可決されました。
- ・互助委員会より、2023年度教師謝儀互助申請が12教会より出され、申請総額が10,439,078円となりました。規定により、1,000万円を超えた分をどのように処理するのかを委員会で検討した結果、今回は超過している額が多くないため、1,000円未満を切り上げて、申請額を満額支給することを、常置委員会に提案し、可決されました。
- ・被災支援委員会より、村上教会、緑野教会へ被災支援のお見舞いを支給したことが報告されました。なお、第5回常任常置委員会において、お見舞い額を確認しました。基本的に、被害状況にかかわらず、お見舞いとして、信徒へは3万円、求道者・教会関係者には、1万円をめどとする、としました。
- ・第72回教区総会議事録案が承認されました。
- ・教区総会議長報告（地区総会へのご挨拶）が朗読され、意見交換がなされ、地区総会に配付することが可決されました。
- ・2023年度教区活動方針に関して、意見交換がなされました。新型コロナウイルス対策支援を継続することが確認されました。また直面の課題に取り組んでいくだけでなく、中長期的視野での教会の力が回復される方策を検討していきたいとの意見が出された。
- ・2023年度関東教区教会負担金割賦案について、2022年度当初教会負担金額を維持することで計算された案が示され、地区総会に配付することが可決されました。今年度の教区活動が、コロナ禍前の状況で再開されていくことを願って、現状維持となりました。負担金総額は、40,634,000円（前年度比39,200円）となります。今年度当初負担金額比増額教会は、60教会、減額教会は、67教会となります。
- ・2023年度教区予算案も、教区活動が再開されて

いくこと前提で組まれています。経常収入45,574,000円、経常支出48,035,635円となります。（前年度繰越、予備費は含まれていません）

- ・2023年度部落解放センター活動献金目標額を、35万円としました。ご協力をお願いします。
- ・第73回教区総会について、5月30日-31日の日程で、さいたま市民会館おおみやレイボックホールで行います。仮執行順序案、議案・報告一覧を確認しました。今総会では、コロナ禍の状況にあることを踏まえ、開会礼拝での聖餐式は見送ることとしました。教会記録審査については、昨年同様に、教区総会期間中には行わず、各地区委員会に委託することになります。昨年設営担当よりの申し送り、昼食時間を11時30分よりもてるように設定しました。なお、今年度の設営担当地区は、茨城地区となります。
- ・教区沖縄平和研修について、2月16日から18日にかけてのプログラム内容が確認され、可決されました。
- ・地区総会への問安使を以下のように決めました。  
新潟地区 田中かおる副議長  
群馬地区 熊江秀一議長  
栃木地区 嶋田恵悟常任常置委員  
茨城地区 栗原清常任常置委員  
埼玉地区 問安辞退
- \*その後、新潟地区、栃木地区からも問安辞退の申し出がありました。茨城地区への問安者が田中副議長に変更になりました。

・各種申請に関する件（敬称略）

- (1) 教会担任教師異動  
白岡伝道所 就 佐藤さゆり（代・正）
  - (2) 巡回教師・神学教師・教務教師異動  
共愛学園 辞 野村 誠（教・正）
- 各種申請・届
- (1) 宗教法人法 第23条申請  
原市教会（土地・建物取得）  
妙高高原教会（建物除去）
  - (2) 教会規則  
鴻巣教会（付帯施設）

# 教師部研修会報告

開催日 2022年10月17日(月)〈ハイブリッド方式〉

## 人間関係を守り育てる大切さ

教師部書記  
清水 信浩



2022年度関東教区教師部研修会は、10月17日(月)に大宮教会とズームでのオンライン参加を利用した、ハイブリッド方式として行われました。人数はオンライン参加32名、対面参加9名、後日視聴19名となり、オンラインの利用により時間や場所に制限されることなく、研修に参加可能となり、より多くの方々が視聴し参加することが出来ました。このことは今後の研修会の開催に関しても検討して良いのではないかと思います。

内容は、「コロナ社会と人間の心理」と題し、新潟青陵大学大学院教授の碓井真史先生(写真上)よりご講演をいただき、コロナ禍の中で語られるデマや陰謀論など、現代社会の複雑さから逃れようとする人間の心理が、容易にカルトのマインドコントロールへと陥ってしまう危険性と、そこからの解放へと私たち宗教者がどのように関わることができるのか、また関わることの危険性を示唆されたと共に、自分の不十分さを知り、混乱している「現場」に正しさを求めすぎず、人間関係を守り育てることの大切さを学ぶことが出来ました。

### 講師プロフィール

碓井 真史 先生(うすい まふみ)

1959年東京生まれ。高校1年で受洗、日本オープンバイブル教団墨田聖書教会会員、日本伝道福音教団新潟聖書教会客員。新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科教授、専門は社会心理学。

著書『あなたが死んだら私は悲しい：心理学者からの命のメッセージ』(いのちのことは社)、『ふつうの家庭から生まれる犯罪者』(主婦の友社)など。

## NOと言える環境を

毛呂教会牧師  
澁谷 弘祐

講演では資料に沿って次の5つの要点を伺いました。要点は『①感染予防と人間関係②不安による過剰行動③他者への攻撃④差別行動・人権侵害を防ぐために⑤正しく怖がるために、正しさを求めすぎない。』の5つです。

講演全体は、冒頭に語られた「感染症は昔から存在しており、感染拡大によって人間の心は内向きになる」という言葉に包括されたと思います。

①では発生当初の移動制限では地域から来訪者を排除する動きが人間の本能である」と伺いました。この本能による感情と、⑤の正しく怖がるという理性との狭間で、それぞれ苦悩する存在が人間であると改めて感じました。強すぎる感情が人間の行動の幅を狭め、理性のブレーキがかかなくなり、生活だけでなく人間性が壊される。見える態度として違う意見に対する攻撃・暴言となり、人権侵害まで起きてしまう。さらに先生は人権侵害について「愛がない」との表現をされたのでクリスチャンの罪理解にも思いを深めました。

この頃カルト問題が注目されていたため先生は「コロナデマ、カルトによるマインドコントロールと現代社会」という追加資料を用意して下さり、その中で不安に立ち向かう防御方法に触れられました。「初めに強くNoと言うこと」。人間関係は面倒になりますが、人間性(=人格)を破壊され新しい人格を上書きされることを防ぐことになります。そしてNoといえる環境は普段の人間関係の豊かさであるとも仰いました。教会こそNoという言葉の根にあるキリストが繋ぐ信頼により歩みたいと切に願っております。



## 分かりやすく伝える

日本聖書学校吉川教会牧師

原田 彰久

2022年度の講師は、新潟青陵大学大学院教授の碓井真史さんでした。クリスチャンである碓井さんは、地元のラジオ番組や、全国ネットのテレビ番組のコメンテーターでもあります。

研修会は、昨年10月17日（月）に午後1時から大宮教会を会場で開催されました。当初、リモートの予定でしたが、急遽、来場してくだり、対面とオンラインの併用（ハイブリッド方式）による開催となりました。

「コロナ社会と人間の心理」に加え、「コロナデマ、カルトによるマインドコントロールと現代社会」も語られました。

まず新型コロナウイルス感染症の流行下で、差別行動や人権侵害があります。そこでは身体的な距離

を保つ一方で、「ポジティブ・ポライトネス」（心の距離を近づける）による、より良いコミュニケーションが大切とのことでした。また現場が混乱し、膨大な情報があふれる中では、正確に言いすぎない、また聞く側の知識レベル、感情レベルに合わせて、分かりやすく伝えることによって人間関係を育てることが大切だと学びました。

他方、ワクチン接種に反対する「陰謀論」や旧統一協会等を巡る「カルト問題」について、「命、科学、宗教」に対するキリスト教会のあり方が問われているとの提言は大切だと思いました。この両者に共通する特色は、ものごとの単純化や不安の中で他の情報を遮断し、偏った情報だけを信じていることです。これに対して、高圧的態度、頭ごなしの否定は逆効果であり、人間関係の改善や本人に考えさせることが大切と言われました。今なお繰り返す感染拡大やカルト問題を身近な課題として確認することが出来て、時宜にかなった学びとなりました。



レントの中で、年度末そして年度初めのご多忙な日々を過ごしておられることと思います。新型コロナウイルス感染も型を変えながら3年が過ぎ、教会でも人々の生活がコロナ前とは大きく変わりました。このような中で、普通に生活できることの感謝を一層強く感じさせられています。

◎年度末の送金は、3月24日（金）までに。

3月最終週の送金までが、2022年度決算の中に入りますが、年度末は会計だけでなく、事務処理をなくてはならないものが多くあります。できましたら、ご送金は3月24日（金）ごろまでにしていただけたら助かります。どうか、ご協力をお願いいたします。

◎書類一式を、3月初旬にお届け致します。

毎年、この時期に教区負担金割賦額案、年度報告書、教区総会関係、社保・教団年金関係等の多くの書類を送付いたします。同封の「送付書類・受領・提出確認表」で過不足を確認した後、担当者へお渡しください。各説明書をよく読んでご記入ください。記入後、提出期限や通数を確認の上、遅れないように教区事務所へお送り下さい。

特に、年度報告書は教区ホームページにフォームがありますので、パソコン上で作成ができとても便利です。ぜひ、ご活用ください。印刷後、**A3版に拡大して2部ずつ**ご提出ください。

◎「自動払込希望科目確認書」提出17日〆切

新年度も自動払込を希望される場合や、新規に自動払込を希望される場合も締切日を厳守し確認書の提出をしてください。期日に遅れると自動払込ができませんので、どうぞご注意下さい。

◎2023年度 教団年金掛金互助申請書の提出

2023年度、年金掛金互助を希望される教会・教師は、必ず地区決裁後、教区事務所に5月末必着でご送付ください。6月第1回常置委員会で審議し決定いたします。その後の受付はありません。

◎2022年度、教区一覧追加

- 15頁 21 白岡〔伝〕〔代〕佐藤さゆり〔正〕
- 16頁 55 羽生の森②〔兼〕星山京子〔正〕
- 20頁 22 風間直次郎 削除 2023.1.12 召天

編 / 集 / 後 / 記

2022年5月より、第72回総会期の関東教区・教区通信委員に加わりました、大宮教会の信徒の石川幸男です。微力ながら、神様の御用に努めてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

マイナンバーカードはお持ちですか？

カードと保険証のひも付けをはじめ、その他のことも便利にするという計画のようですが、なかなか進んでいないようです。どうぞ慌てずじっくりとご検討下さい。

◎健康保険料、介護保険料の料率が改定されます。

2023年3月分より、料率が改定されます。

健康保険料 9.71% → **9.82%**へ

介護保険料 1.64% → **1.82%**へ

◎3月分の自動払込日は、3月24日（金）です。

3月分から社会保険料が変更になっています。改定された保険料率で計算し、不足の無いように期日前に入金しておいてください。

◎退職時の被保険者資格喪失について

5日以内に被保険者・被扶養者分も含めて全員の保険者証を教区事務所へ返却してください。また、就職・結婚などで扶養でなくなる場合は、資格喪失日を記して該当者の保険証を返却してください。

◎新規加入を希望される方について

新規加入手続きは、保険証が手元に届くまでに2、3週間かかります。加入に必要な書類がありますので、早めにお問合わせ下さい。

◎協会けんぽ 報酬額報告書の提出について

等級決定（保険料算定）のための大事な届出書です。教会総会において決定された月額謝儀、賞与額を記してお送りください。毎年、保険者番号の記入漏れが多いです。保険者証で番号を確認し記してください。

◎4月～6月分保険料は、3月分と同額です。

新年度、謝儀額に変更がある場合でも、**加入者全員、4～6月分の保険料は従前と変更ありません。**保険料の変更は、必ず教区事務所から事前に通知をします。増減して保険料を送らないでください。

◎被保険者生活習慣病予防健診の受診について

1年1回、各自で健診機関で予約をとり受診してください。けんぽ協会から補助があり、補助金を差し引いた額で受診できます。

◎扶養配偶者の「特定健診受診券」は、ご自宅宛にはがきで届きます。

1月9日、大宮教会におきまして3年ぶりに埼玉地区の「新年合同礼拝」が献げられ、58教会中55教会126名の参加がありました。聖餐式を行わず残念でしたが、盛会となりました。主に感謝いたします。

(石川幸男)